



2022年度 ジュマ・ネット年次報告書

Annual Report 2022

Jumma Net

ジュマ・ネットとは	1	紛争被害児童教育支援活動	7
チッタゴン丘陵地帯の今	2	バンドルバン小学校支援活動	8
ミャンマー避難民緊急支援活動	3	アッサム州女性支援活動	9
バンドルバン国内避難民支援活動	5	財務会計報告	10

ジュマ・ネットとは

私たちは、2003年に設立されたNGOで、バングラデシュ・チッタゴン丘陵地帯の平和促進と少数民族の公正な権利のために活動しています。「ジュマ」とは、チッタゴン丘陵地帯に住むモンゴロイド系少数民族の総称であり、ベンガル語で「焼畑を行う人」という意味を持ちます。

「すべての抑圧されるエスニック・マイノリティのために」を合い言葉に、誰もが公正で安心して生きられる社会づくりをめざしています。



1 バングラデシュ・チッタゴン丘陵地帯

国土の10%ほどを占め、ジュマと呼ばれる11の民族が暮らす。内戦後も抑圧や人権侵害が続く。

2 インド・アッサム州

インド北東部の州。英領植民地時代やバングラデシュ独立戦争時にベンガル人の移動が起こっており、政治的争点となっている。

3 インド・ミゾラム州

バングラデシュとミャンマーに挟まれるように位置する。ほとんどが山岳地帯で、ミゾと呼ばれる少数民族がマジョリティを占める。

2022年度 活動トピック

各地での情勢変化による避難民の発生や対立の激化に伴い、今年度は緊急支援活動を複数実施しました。その他、継続して実施している被害者支援活動や調査なども実施しています。

12名の紛争被害児童を支援 —チッタゴン丘陵地帯

2007年から実施している紛争被害児童支援は、今年で15年を迎えました。

ミャンマー避難民支援 —ミゾラム州

軍事クーデター以降、約3万人が流入しています。多くはチン州出身で、インフラが整っていない生活を余儀なくされています。

バンドルバン国内避難民支援 —チッタゴン丘陵地帯

バンドルバン県におけるクキ・チン民族軍 (KNA) の活発化の結果、インドに500名、国内避難民が約8千名にのぼっています。

内紛被害家族支援調査を実施 —チッタゴン丘陵地帯

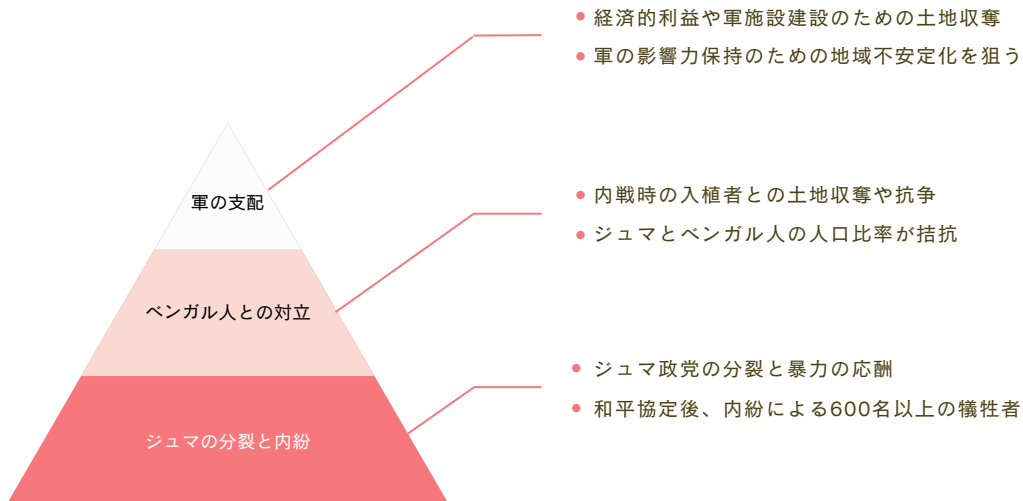
内紛被害に遭った家族の経済自立再建プロジェクトのため調査を実施しました。

チッタゴン丘陵地帯の今

1997年の和平協定から25年が経ちました。現場で市民リーダーや政治家などから話を聞く中で、その実現には希望が見出せない声も聞かれることがあります。特に政府・軍の政治的影響力を握ろうとする駆け引きの中で、この地域の平和にどう向き合うべきか。チッタゴン丘陵地帯の今と課題をまとめました。

平和を阻む課題

チッタゴン丘陵地帯を取り囲む課題は、重なり合うように存在しています。特に和平協定後の大きな課題として、ジュマの分裂が挙げられます。内部分裂と暴力の応酬はジュマ社会の直接的な弱体化を招くだけでなく、国際社会のアプローチも困難になることから、平和を実現するために第一に乗り越えなければならない事柄となっています。



軍の駐屯と抑圧

軍の政治的・経済的利益の手段に

バングラデシュ軍の政治的影響力を握ろうとする駆け引きの中で、この地域が翻弄されてきました。

近年では開発事業や経済的な利益による動機も問題視されています。

ベンガル人との対立

暴動や土地収奪などの事件

内戦中の政策で行われたベンガル人の入植で人口比率が大きく変わりました。土地の争いや事件からコミュニティレベルの暴動に発展するケースもあり、共存の術が求められています。

ジュマの分裂と内紛

泥沼化する暴力の応酬

和平協定後、ジュマ内部の分裂が深刻化し、2023年4月時点では大きく6つの政治グループに分裂しています。互いに殺害や誘拐が発生しており、ジュマ全体の弱体化が進んでいます。

今後も現場を大切に活動を続けていきます

現場での活動や、市民リーダーとの対話をする中で、紛争の犠牲や負担を強いられるのは全く罪のない一般市民であることを痛感します。大きな政治の争いの中で、ひとりひとりの尊厳や選択が抑圧されている状況には、心が痛みます。

平和への道りは決して容易いものではないものの、地道な活動で少しずつ希望を見出していくことが必要です。特に、国際社会に現地の状況や変化を訴え続けることで第三国の組織や国際的な会合の機会を十分に活用し、声を上げていく必要があります。各国のNGOや国際社会がこの課題に目を向ける機会を作り出すことは、大きな役割です。その“繋ぎ目”としてできることはきっとあるはずですよ。

そしてもうひとつ、現場と関わり続けられる取り組みも重要です。常に政治的なリスクが取り巻く以上、そのバランスをとることが必要です。対立でなく、前向きな提言ができるスタンスを見つけていくことも疎かにせず、機会を作り出します。



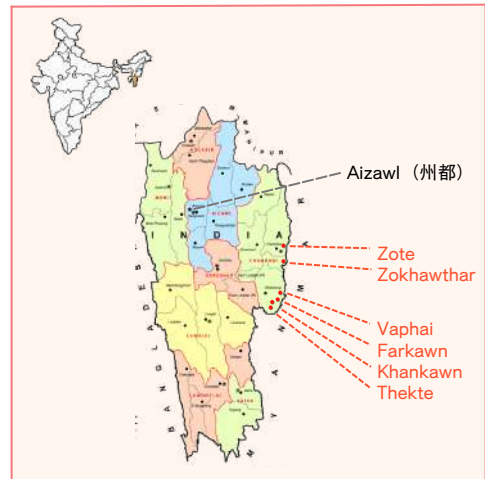
現地リーダーとの対話を行う（写真はチャクマ王と面談）



事業報告 国際社会の支援が限られる北東インド インド・ミゾラム州ミャンマー避難民緊急支援活動

2021年2月1日、ミャンマー国軍がクーデターを企てました。1962年のネウイン将軍によるクーデターから数えれば3度目の軍事政権が始まりました。民主派勢力の抵抗に対し、軍は徹底的な弾圧を行い、態度を強硬化させています。その結果、近隣国への避難民化が相次ぎました。特にジュマ・ネットが支援を実施したインド・ミゾラム州には、3万人以上がミャンマー・チン州から逃れています。その一方、インド側の避難民に対する国際社会の関心はあまり高くなく、またインド中央政府が受け入れを表明しないことも重なり、当地への支援は非常に限られている状況でした。

そこでジュマ・ネットは、2022年7月から緊急食糧支援活動を実施しました。カウンターパートとの協議の結果、インドとミャンマーの国境地帯に位置する6つの村での支援を実施しました。2度目は2023年2月から再び食料配布に加え、医薬品配布及び水タンクの設置を行いました。



ジュマ・ネットがミゾラム州で活動を決めた理由

ジュマ・ネットはこれまでインドのアッサム州・トリプラ州での活動を行った経験がありますが、ミゾラム州での活動は初めてでした。本プロジェクトで、新たな地域での活動を決定した理由は以下の通りです。

1 国際社会の注目と支援が限られていたから

タイ国境側に対して、インド国境側は相対的に支援が限られた状況が続いていました。ここには、アクセスの難しさやインド中央政府の態度など複数の要因が重なっているはずですが、北東インドで活動する日本のNGOも少ないことから、支援をすることの社会的意義が大きいと判断しました。

2 チッタゴン丘陵地帯との関連度が高かったから

チッタゴン丘陵地帯とインド・ミゾラム州は地理的に連続しています。また両地域には共通のルーツを持つジュマが居住しており、関連性が高い地域です。ミゾラム州の状況を理解することは、ジュマをはじめとしたマイノリティ問題の構造を広い視点で把握することにつながると考えます。

チッタゴン丘陵地帯とミゾラム州の位置関係



Google mapより作成

活動報告①

緊急食糧配布 (2022.7 / 2023.2)

2022年7月～9月に、ミゾラム州の国境地帯に位置する6つの村で緊急食糧配布を実施しました。米・豆・油・砂糖・塩といった、調理に必要なものを選定しました。配布にあたっては、事前に各村長との連携を図り、各村の実情に合わせたニーズや配布方法を協議の上実施しました。その結果、多くの村では米のニーズが高かったため、当初の計画から米の配分を増やす形で配布しました。

避難民の多くは安定した現金収入の手段を持ち合わせていないことから、食糧の確保も困難な状態でした。そのため、2023年2月～5月にかけて2度目の緊急食糧配布も実施しました。村の支援も息切れが続く中で、国際社会からの支援が実施されたことに対して、避難民からも直接感謝の言葉を頂きました。

◆ 避難民からのメッセージ

スタッフが現地訪問した際、避難民から支援に対するメッセージを頂きました。特に「遠い日本の人々が私たちのために取り組んでいること」に対する感謝が印象的でした。支援は、気持ちを届けることでもあったと感じました。



活動報告②

避難民キャンプ調査

8月のスタッフ現地訪問では、避難民に対するインタビュー調査を実施しました。多くの避難民がミャンマーで事件や戦闘を目撃していました。ミゾラム州では既存の村に隣接する形でキャンプが建設されるパターンが多く、食糧・電気・水など、基本的なニーズが依然満たされていない状況です。



◆ 避難民の生活状況

キャンプごとに生活状況は異なりますが、多くは基本的なインフラ整備や現金収入に困難を抱えていました。村や州政府の支援も、地域により内容が異なります。

活動報告③

医薬品配布・飲料水タンク設置

2023年2月から実施した2度目の緊急支援では、食糧配布に加え医薬品の配布および水タンクの設置を行いました。雨季を迎える中で、生活水の汚濁化とそれに伴う感染症の流行への対策を意図しています。山岳地帯のミゾラム州では水が山間部に流れやすく、確保が難しいことも実施理由の一つです。



◆ 見えにくいニーズ

ミャンマーの高地から避難してきた避難民の中には、気候の違いに苦労を感じている例もありました。インフラが整わず日常的に水浴びができない地域では、その影響もより大きいと感じます。

多大なご支援・ご協力ありがとうございました

2022年7月から実施したミャンマー避難民への緊急支援活動に対して市民の皆さまから多大なご支援・ご協力をいただきました。その結果、目標の300万円を達成し、2度の緊急支援活動を実施することができました。皆さまのご支援・ご協力誠にありがとうございます。

また、2022年8月の現地訪問時に頂いた避難民の方々からの感謝の言葉に対して、「たまたま私が現場に来たが、これは日本の市民の人々が避難民の人々の安全と平和を祈る気持ち」だとメッセージを返しました。遠くにおいても、誰かの気持ちを勇気づけることは確かにあると感じました。市民の連帯の力を信じて、これからも活動していきます。

今後の課題

2023年3月～4月にかけて、スタッフの稲川が2度目のミゾラム州の訪問を行いました。今回は州都アイソウル周辺の避難民や、元議員のミャンマー避難民たちからヒヤリング調査を行いました。衣食住に関する基本的なニーズは依然厳しい状況にあります。また、避難民の帰還も未だ現実的ではありません。滞在が長期化することを前提に、州政府やホストコミュニティの意向を大切にしながら、建設的な支援策を打ち出していく必要性を感じています。



バンドルバン国内避難民支援活動

2021年から、突如として新たなジュマの武装グループの活動が活発になりました。彼らは自らを Kuki-Chin National Army (KNA=クキ・チン民族軍) と名乗り、現在のチャクマ体制に批判的で、新たな自治州を求めるために作られた武装グループとされています。バンドルバンで何が起きているのか、その解明が求められています。

Why なぜ起こったのか

新たな武装グループの活発化

Kuki-Chin National Army (KNA=クキ・チン民族軍) はチッタゴン丘陵地帯のバンドルバン県で組織された新たな勢力です。2022年4月17日にKNAはランガマティで2人、2022年6月21日に4人のエスニック・マイノリティを殺害し、社会に衝撃を与えました。主にボム族、ルサイ族といったジュマの一部の人たちで構成されています。彼らはインド・ミゾラム、ミャンマー・チン州の人々と同じルーツを持ち、チッタゴン丘陵の主流派であるチャクマ、マルマ、トリブラとはあまり親密ではありませんでした。

昨年10月、バングラデシュ政府はKNAがイスラム過激派の勢力に軍事訓練をしている情報を得たとして、2022年10月から政府の治安部隊がバンドルバン県で捜索作業を展開しました。その際、7人のイスラム過激派、3人のKNAのメンバーを逮捕しました。

一方でKNAが駐留している村では、これからもバングラデシュ軍との戦いを続けると豪語し住民が非常に恐れているという話も聞かれます。軍も強硬な姿勢を貫いており、報道記事によれば銃撃戦が複数発生しています。



インド・ミゾラム州でボム族の市民から聞き取りを行う様子
*情報提供者のプライバシー保護のため、画像を加工しています

KNAは何を求めているのか

KNAの目標はチッタゴン丘陵に自治州をつくることで、「今の和平協定はKuki-Chinの人々でなくChakmaのためのものだ」としています。KNAは、右の地図が示す範囲でチッタゴン丘陵内に独自の自治を求めています。

エスニック・マイノリティ政治グループの分裂と抗争が、ここまで広がり、いまだに収集されていないことに地域住民の多くは、動きの背後に軍諜報局があると囁きます。ジュマの中でもマイノリティであるグループが武器を手にして活発な動きを見せていることも、その背景を想像させます。

こうした内部抗争による消耗はチッタゴン丘陵だけでなく国外の運動にも影響を与えています。



KNAが領土を主張している地域
bdnews24.comより

What 何が起きているか

数千人の一般市民がジャングルで避難生活

一連の武力衝突や軍による無差別な不当逮捕や捜索の結果、避難民が発生しました。当初は住民がインド・ミゾラム州に逃げるようになり、約300名がインド側に入ったものの、その後インド政府や国境警備隊が入国を拒否し、新たにインドに越境しようとした520人が国境で追い返されました。避難民の大多数はクリスチャンです。その後も次第に避難する人々が増え、現在では約8千名の住民が国内避難民となっています。多くはジャングルの中で生活を強いられています。

国内外いずれにせよ、市民が生活を追われている実態は変わりません。特に国内避難民においては政治的な文脈も絡み、支援が大きく不足していました。そこでジュマ・ネットは、より支援の届きにくい国内避難民への支援実施を決定しました



活動報告

国内避難民への緊急食料配布

2022年10月以降、数千名の一般市民が村での生活を追われ、ジャングルなどでの避難生活を余儀なくされている状況が少しずつ明らかになってきました。戦闘や軍の不当な捜索を恐れ、ジャングルに逃れている人々は一般市民であり、一連の事件によって大きく影響を受けています。

そこでジュマ・ネットは、人道支援に取り組む意思のある現地NGOとのコンタクトを試み、2022年3月から緊急支援活動を実施しました。ジャングルで通常の生活を送ることができていないという報告を受け、米や豆をはじめとした基本的な食糧を配布しました。実施に際しては政治的な緊張感が高い中ででの支援であるため、慎重なやり取りが求められました。

配布にあたっては、ジャングル内でそれぞれ分散して生活している可能性が高いことから、バンドルバンの該当地域にある5つの市民会館を拠点に実施しました。



ジャングルでの生活の様子

積み重なる課題の難しさ

バンドルバンでの一連の出来事の構造は、チッタゴン丘陵地帯の紛争やジュマの内紛と密接に関わる事柄であり、複雑に絡み合う課題であることを痛感させられます。

● 大規模な避難民化

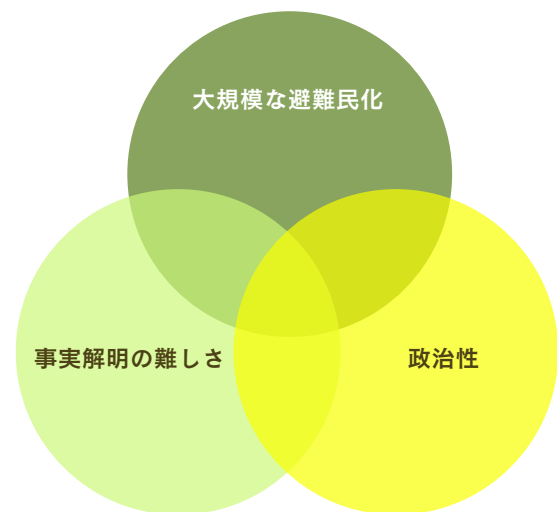
一連の出来事によりインドに逃れた避難民は数百名、さらに国内避難民となった人々は約8千名と推測されています。国際社会からの支援が極めて限定されることに対して、避難民の数が圧倒的に多いことが大きな課題です。

● 事実解明の難しさ

現地報道が限定されていること、入域が制限されていることなどから、現地で発生している事柄を明らかにすることが難しい状況にあります。報道の中立性にも注意を払う必要があります。

● 政治性

ジュマ内紛や軍の存在、隣国ミャンマーの武装勢力の存在など、政治的な事情が大きく絡む内容であることから、支援や情報発信にも細心の注意を払う必要があります。



今も続く武力紛争

2023年度に入っても、現地の状況に光が見えません。散発的な戦闘が勃発するなど、未だ混迷を極めています。ジュマ・ネットは、現地からの情報をキャッチアップしながら注視しています。また、事態好転の兆しが見えないことから2023年度の追加の支援活動も検討しています。

2023年度6月時点で、この問題に対して活動するNGOは世界を見渡してもジュマ・ネットしかいません。今、苦しんでいる人々へ、我々ができることを届けていきます。



*避難民の安全を考慮して画像を加工しています

紛争被害児童教育支援活動

チッタゴン丘陵地帯の紛争によって被害に遭ってしまった子ども達を中心に、2007年から教育支援活動を実施しています。現地の寄宿舎学校と連携し、寮の生活費・授業料を支援しています。2022年度は12名の児童・生徒を支援しました。支援児童の一覧は以下の通りです。



リトン・チャクマ

2010年にジュマの人々による暴動が起きた際、父が軍人に殺されてしまいました。寄宿舎学校に長く暮らし、一度はお坊さんになりました。絵を描くことが好きです。とても明るい性格で、ムードメーカー的な存在です。



シリカ・チャクマ

リトンの妹です。現在は、その暗い過去を感じさせないくらい明るい性格です。最近韓国アイドルにハマっており、曲を流しながらダンスを何度も披露している様子が印象的でした。



リベン・トリプラ

片親で貧しい家庭に育ちました。2018年から支援しています。当初は新しい環境に慣れることに苦労したようです。彼は成績優秀で、推薦委員会からは大学まで行かせたいというリクエストが来るほどです。



イティモニ・チャクマ

好きな科目は英語で、休み時間には絵を描いたり、かくれんぼしたりなど友達と寄宿舎学校での生活をとても楽しんでいる様子でした。将来の夢は「警察官」で、市民の役に立つようなことをしたいと語りました。



ノンディニ・チャクマ

母親を病気で亡くし、父親に捨てられてしまったため叔母に育てられました。歌やダンスが好きで、落ち込んだときは歌を歌って気分転換をすると話していました。大学を卒業して仕事に就き、収入を得たいという目標を持っています。



メンワイ・ムロ

彼はミャンマーの国境近くに住んでいました。父がジュマの政治グループに殺害されたことで、一度は勉強を中断せざるを得ませんでした。それでも諦めきれず、徒歩で学校へ帰ってきました。将来は他の人の力になれる仕事に就きたいと話してくれました。



アウワ・マルマ

読書が好きで、休みの日にはたくさんの本を読んで過ごしています。昨年、初めて海を見て、心地よくて幸せな気分だったと話してくれました。将来は高校の国語教師になること、そして小説を書くことが彼女の夢です。



トゥンプレム・ムロ

2021年に寄宿舎学校に来たばかりです。生活を楽しめている様子でした。父母と4人の兄弟を持つ7人家族です。好きなことは絵を描くことと本を読むことです。将来は医者になりたいという目標を持っています。



トゥンパ・チャクマ

父がジュマの政治グループに殺害されてしまいました。シャイな性格ですが、ピクニックに行った際はとてもはしゃいでいました。将来は医者になるのが夢で、日々勉強に励んでいます。



オジェン・トリプラ

彼は2021年に寄宿舎学校へ来たばかりですが、友人たちと楽しく過ごしている様子でした。サッカーとクリケットが大好きな、活発な少年です。将来はエンジニアになることが夢だと語ってくれました。



モンプリ・チャクマ

彼女は歌うことと踊ることが好きです。寄宿舎学校へ来た当初は生活に慣れず泣いてしまうこともありましたが、最近は友人と楽しく過ごしているようでした。裁判官になりたいという、立派な夢を持っています。



ポンワイ・ムロ

彼の好きな科目は英語で、休み時間には大好きなサッカーをして楽しんでいます。好きな食べ物はアイスクリームで、お小遣いを持って自分でお店まで買いに行ったこともあると嬉しそうに教えてくれました。

Focus

勉強を続けたい——自分の足で再び学校へ

メンワイ・ムロ君（19）は、バンドルバン県の出身の青年です。

彼が8歳の時、父が政治グループにより殺されました。農民であった父は、焼き畑に向かう途中で襲われました。殺害された理由は人違いでした。間違っ
て殺害されてしまったのです。当時彼はまだ小さく、その時の事をはっきりと覚えて
いません。

彼が寄宿舎学校で勉強するのは2回目です。1度目は、2年生の時に父に連れら
れてやってきました。まだ小さい彼は、家が恋しかったそうです。その後、友
達ができ、勉強も遊びも楽しかった1年間を過ごしました。しかし、父が亡く
なったことで学費と寮費が払えなくなり、村に帰ることになりました。その
後、おじさんに引き取られて、その家族と過ごしていました。

その後、おじさん家族の支えで、村の学校で5年生まで勉強しました。おじさんが勉強を続けさせ
てくれたため、再び寄宿舎学校に入れることになりました。

「また勉強できる」と喜んでいた矢先、優しくったおじさんの突然の病死の知らせが入りました。
その後は再び学校を離れざるを得ず、当面は親戚の焼き畑を手伝っていました。ただそれでも、ど
うしても勉強を諦めたくなく、家で時間を見つけては昔の教科書を読んでいました。毎晩、もう一
回勉強したい！絶対に戻る！と、強い気持ちを持ち、やがて日雇いの仕事も始め、学校へ戻る交通
費や学費を貯めました。そしてついに彼は、2週間かけて徒歩で学校へ戻ってきました。

当時一緒に勉強していた同級生たちは、もうすでに卒業しています。それでも彼は諦めていま
せん。彼の今の夢は、高校に進学することです。



2022年8月、支援児童とのピクニックにて



面談では、将来への想いを語ってくれました

事業報告

パタイヤ村小学校支援活動

パタイヤ村は、バングラデシュ、チッタゴン丘陵バンドルバン県の山間の谷間にあ
る、70世帯ほどの家族が住む小さな村です。

パタイヤ小学校には約70名の子どもが通っており、ジュマ・ネットは3年間教員の給
与、文具や教材の提供を続けています。この支援を決めた最大の理由は、近くに駐屯
する軍人が、不当にジュマの広大な土地を取り上げ、逆に地代を強制しているとい
う実態を知ったからです。その実態を観察する意味でも、支援の必要を感じました。



活動報告①

2022年度は、前年度に比べて新型コロナウイルスの影響での学校閉鎖も短期間となり、児童生徒・学校関係
者・村民らが健康に暮らすことができました。

学校閉鎖による基礎学習能力や学習習慣の影響が不安視
されましたが、フォローアップ授業の実施をするなどし
て、パンデミック以前と同様な学校運営や生徒への教育
環境を整えることができています。

活動報告②

2022年度は教員の人件費支援および奨学金支援を実施
しました。教員とは毎月1度電話での報告・相談を実施
しました。

2022年12月末に小学校を卒業する5年生の5名は、全
員が前期中等教育への進学を志望しており、無償で寮生活
を送れる寄宿舎学校への進学を希望しています。試験に
向けての対策や入学準備をパタイヤ村小学校教員などが
サポートしました。

今後の課題

この小学校は地理的にも遠隔地で、谷あいの小さな村にある60人ほどの小
さな小学校です。学校の校庭に軍にひかれた境界線があり、村人は不当に軍人
から地代を強制されています。3名の先生の給与と、教材、文房具などの費用
を3年間支援しました。他のドナーから支援を受けられるようアドバイスを続
けていく予定です。





事業報告 あなたがある日突然、外国人だと言われたら

インド・アッサム州活動報告 — 市民権問題と女性生活支援

インド北東部のアッサム州では、主にバングラデシュからきた移民出自の人々への反感が強く、2013年から「全国市民登録簿」を更新し、外国人を摘発するための基盤を作ろうとしています。2019年にその更新版の名簿が公開されましたが、登録申請をした3300万人のうち、190万人が名簿から漏れており、特に移民出自のムスリムが生活的にも精神的にも非常に苦しい状況に置かれています。

ジュマ・ネットはインド・アッサム州で市民権剥奪の危機に怯えるムスリムの人々を中心に、子どもの教育や女性たちの手工芸品作りを支援してきました。今年度は弁護士グループと、コロナ禍で始まった女性たちの自助グループ「アムラバリ」への支援を実施してきました。



インド・アッサム州

活動報告①

弁護士グループへの支援

全国市民登録簿の更新は一段落しましたが、ムスリムの人々を中心に「外国人」と嫌疑をかけられ、外国人審判所で審議される人々はまだ数多くいます。書類の不備があれば外国人拘留所で長期にわたって拘束されますが、貧しい人々にとっては書類を準備すること、弁護士費用を賄うことは困難です。

ジュマ・ネットは貧しい人に弁護を提供する「正義と自由イニシアティブ」の弁護士グループに対し、裁判費用の一部を支援してきました。現在、インド政府はムスリムに対して強硬な政策をとる政党が政権の座についており、弁護士たちも日々圧力にさらされています。海外からの支援があることは、単に金銭的な面だけではなく、精神的なサポートにもつながっています。



Kadam Ali (44) was detained in the Goalpara detention camp for more than three years.

市民権問題当事者へのインタビューをもとにした映像を作成

活動報告②

アムラパリの活動とジュマ・ネットの支援

農村部の女性たちの自立支援として刺繍や縫物などの手工芸品作りに取り組んできた「アムラバリ」は、今年前半に生理用の布ナプキンの受注を受け、女性たちとミシンや手縫いのトレーニングに取り組んできました。農村部の女性たちが裁断や手縫い部分、都市部の女性たちがミシン部分と分担して訓練を受け、新たな手工芸品作りに取り組んでいます。これはデリーに本部を置くNGOが、いまだに生理についての話題がタブーであるインドの農村部の女性に向けた啓発活動の一環として発注したものです。

ジュマ・ネットはアムラバリへの支援として、こうしたアムラパリの活動の記録と同時に、メンバーの周囲にいる市民権をなく奪われた人々への聞き取りも行ってきました。メンバーの中には家族や自身が市民権の危機にさらされている人も多く、自立支援だけでは解決しない問題の難しさが課題です。



活動では市民権をなく奪われた人々への聞き取りも行う

2022年度 活動計算書

【税込】単位：円

2022年度
(2022年4月1日～2023年3月31日)

科目	金額
経常収支の部	
経常収入	
受取会費	374,000
受取寄付金	2,129,762 *1
受取助成金	3,540,000 *2
販売事業収益	4,550
受取利息収入	25
経常収入 計	6,048,337
事業費	
海外事業費	4,607,788
商品仕入代	11,109
通信費	127,562
消耗品費	18,711
支払い手数料	27,195
印刷製本費	60,479
賃貸料	13,200
当期事業費 計	4,866,044
合計	4,866,044
事業費 計	4,866,044
管理費	
人件費	685,700
旅費交通費	0
通信運搬費	43,871
印刷製本費	750
賃貸料	34,034
業務委託費	0
支払手数料	0
地代 家賃	0
管理費 計	764,355
支出合計	5,630,399
経常収支差額	417,938
前期繰越収支差額	5,140,207
時期繰越収支差額	5,558,145

Notes *1

インド・ミャンマー避難民緊急支援、バングラダッシュ国内避難民緊急支援に対する個人の皆様のご支援が含まれます

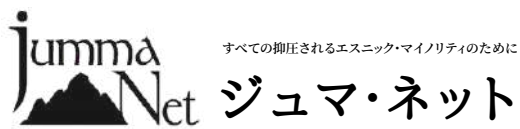
Notes *2

全国友の会中央部様
アユス仏教国際協力ネットワーク様（時局対応支援）
立正佼成会様（一食平和基金）
WE21ジャパン地域団体様

2022年度 貸借対照表

【税込】単位：円

資産の部		負債・正味財産の部	
科目	金額	科目	金額
流動資産		流動負債	
現金	144,307	仮受金	0
当座預金	3,419,921	流動負債 計	0
普通預金	2,102,210	負債の部合計	0
現金・預金 計	5,738,438	正味財産の部	
その他流動資産		正味財産	
仮払金	288	正味財産	3,005,326
貸倒引当金	△178,981	（うち当期正味財産増加額）	2,554,419
流動資産合計	5,559,745	正味財産 計	5,559,745
資産の部合計	5,559,745	正味財産の部合計	5,559,745
		負債・正味財産の部合計	5,559,745



団体名 ジュマ・ネット

住所 〒132-0033
東京都江戸川区東小松川3-35-13-204
小松川市民ファーム内

メール info@jummanet.org

電話 03-3655-1005

理事 下澤 嶽 トム・エスキルセン
安達 淳哉 木村 真希子 日下部 尚徳

監事 今村 公保 井口 由美子